

2025 年 10 月 16 日 (木) 第 2 回例会

【対面式 ZOOM ハイブリッド例会】

会 長 時 間



ロータリーは自己研鑽の場です。みなさんこんばんは。

今日は、ロータリーが大切にしている価値観のうち、大切な 2 つの価値観をご紹介します。それは、「親睦」と「寛容」です。

まず「親睦」という価値観です。ロータリークラブに入会すると、よく「ロータリーは親睦が大切だ」という言葉を耳にします。「ロータリーの親睦と奉仕は車の両輪だ」という言葉もあります。ロータリーはもともと英語圏で生まれましたから、こういう用語はすべて英語の和訳です。ですから、元々の英語を見なければ、時にその意味が誤解されることも多々あるので注意が必要です。

では、ロータリーで「親睦」と訳された、もともとの英語は何なのでしょう。それは、「フェロウシップ」です。「フレンドシップ」ではないところが重要です。「フェロウシップ」の和訳は、辞書には、もちろん「親睦、親交」という和訳もありますが、「仲間であること、仲間意識、連帯感」ともあり、僕はこちらの方がロータリーの「フェロウシップ」を理解しやすいのではないかと思います。どういうことかと言いますと、「フェロウシップ」というのは、単に一緒に遊んだりして親交を深めること、つまり「フレンドシップ」よりも、より次元の高い、仲間、連帯感という意味が強いということです。

ロータリーの親睦というのは、単なる「フレンドシップ」ではなく、もう少し次元が高い「フェロウシップ」だということ。ロータリーの入門書にもここまでは説明してありませんが、これはよくご理解いただきたいと思います。ロータリークラブでは、飲み会をしたりゴルフをしたり釣りをしたり、一緒に遊ぶことがあります。そのこと自体はロータリーの「親睦」ではなく、単に「フレンドシップ」です。もし、そこから、仲間意識、会員の誰とでも世間の上下関係に関係なく仲良くする意識が生まれるとしたら、それがロータリーの「親睦」ということになります。これが理解できないで、「ロータリーは親睦が大切だ」という言葉を聞くと、ロータリークラブに入ると飲み会や一緒に遊ぶことが大切なんだという誤った理解をすることになります。そうではありません。飲み会や遊びを仲間意識「フェロウシップ」を高める機会にするならいいのですが、そうではなく単に一緒に遊ぶのであれば、それはロータリーの「親睦」ではありません。

では次にもうひとつ、「寛容」という価値観をご紹介します。「寛容の心」あるいは「寛容の精神」と言われることもあります。また、ロータリーでは、「ロータリーの寛容の心に免じてお許し下さい」という言葉をよく耳にします。

「寛容」という和訳のもともとの英語は「トレレーション」ですが、この和訳を「寛容」としたのは、「親睦」という和訳と違って上手な和訳だと思います。ではロータリーの「寛容」とはどんなものなのでしょうか。

実はこの「寛容」という言葉は、ロータリーの創設者であるポール・ハリスが使った言葉です。以前、ポール・ハリスが、職業奉仕の父と言われるアーサー・フレデリック・シェルドンがシカゴロータリークラブに持ち込んだ奉仕概念を強引に普及させようとして摩擦を生み、クラブの2回目の会長を任期途中で辞することになったという話をしました。その後、彼は、全米の16のロータリークラブを束ねる「全米ロータリークラブ連合会」という、今の国際ロータリーの前身になる団体を設立して、そこでこの概念を普及させたのですが、その連合会の機関誌第一号で、シカゴクラブにおける自分の強引なやり方を反省し、「寛容」の重要性を訴えました。これがロータリーで「寛容」つまり「人を認める」ことが、重要な精神的柱になったきっかけです。

「寛容」とは「人を認めること」です。今、アメリカをはじめとして DEI という考え方が逆風を浴びていますが、ロータリーでは今でもこの DEI という概念をととても大事にしています。DEI の D は「ダイバーシティ」、つまり「多様性」です。ひとはそれぞれジェンダー、価値観、考え方、生き方、色んな事が異なります。ロータリーでは、こういう多様性を認めようということです。たとえ自分と異なっている、「そういう考え方もあるんだな」と、他人を認め、それが自分と違うからと言って攻撃したり違和感を持たないという態度が、ロータリーの「寛容」です。

しかし、前回お話した「四つのテスト」と同じで、それを理解することと実践することは全く次元の違う話です。「寛容」の大切さはみんなわかっているけど、現実社会では他人に対して寛容になれない人が多いのではないのでしょうか。自分と異なる他人を排除する、意見が異なる人に嫌悪感を持つ、同質の人ばかりで徒党を組む。よくある話です。しかし、我がクラブのウェブサイトには、「広島新世代ロータリークラブは、沼地に美しい蓮の花を咲かせようとする人々の集まりです。」と明記してあります。これは、現実社会を泥沼にたとえているのですが、その中にあっても、誰とでも仲良くするという理想を追求しようとする人が集まっている、という意味です。是非皆さん、まずはクラブの会員同士でそれができるように、自己研鑽をしていってください。それは必ず皆さんを取り巻く現実社会でも発揮できるようになるはずです。

最後に付け加えますが、先程申し上げましたように、ロータリーはもともと英語圏で生まれましたから、私たちが使っているロータリーの用語はすべてもともと英語です。しかし、実はロータリーの和訳は余り上手ではありません。

今日ご紹介した「親睦」「フェロウシップ」もそうですが、僕が最悪の和訳だと思っているのは、「奉仕」です。この和訳がいかに関ロータリーを誤解する原因になっているか、それを指摘する方々は日本全国にたくさんいます。

「奉仕」のもともとの英語は「サーヴィス」です。「サーヴィス」とは、サードする、という意味ですが、英語のサードとは、たとえば簡単な例では、レストランでホールスタッフが食べ物をお客さまに運んでくることです。簡単に言うと、「サーヴィス」とは、単に「人に何かをしてあげること」という意味です。

しかしこれを、「奉仕」と訳してしまいました。「奉仕」という言葉は、日本人からすると、何か無償で人に貢献すること、タダで何かをあげること、こういうニュアンスが感じられます。

しかし皆さん。これは大きな誤訳です。ロータリーの「奉仕」つまり「サーヴィス」は、無償で何かを他人に提供するようなことではありません。これは「ボランティア」ですね。そうではなく、ロータリーの「奉仕」は単に、「人に何かをしてあげること」、もう少し言えば、「人の役に立つこと」、こういう意味です。

我がクラブのウェブサイトには、「ロータリークラブで言うところの「奉仕」は、英語では「Service」と表現されます。つまり、ここで言う『奉仕』とは必ずしも『ボランティア』を意味しません。」と記載さ

れていますが、ロータリーの「奉仕」とは、「ボランティア」ではなく、「人の役に立つこと」である。このように覚えていただけたらと思います。

以上で今日の会長時間を終わります。

例 会 次 第

- ・開会点鐘
- ・ロータリーソングの唱和 「我等の生業」
- ・来訪ロータリアン及び来賓者の紹介
なし
- ・会長時間
- ・幹事報告
- ・出席報告
- ・委員会報告
- ・例会プログラム
会員卓話「私の大事にしていること」
- ・閉会点鐘

幹 事 報 告

- ・10月19日（日曜日）、「東広島芸術文化ホールくらら」にて地区大会本会議が開催されます。
- ・本日、「ロータリーの友」を配布しております。ロータリーの友はオンラインでも読むことができます。ログインに必要なIDとパスワードは本日メールしています。
- ・6月13日からの台北国際大会について。
- ・次回例会は11月6日（木曜日）午後6時からおりづるタワーにて。

出 席 報 告

本日の例会 参加会員数： 20名中13名（うちオンライン参加者2名）【出席率65%】
来賓・来客： 0名

委 員 会 報 告

成長支援委員会

本日例会から、毎回6名の方に、「私の大事にしていること」というテーマで、おひとり5分ずつお話をさせていただきます。担当された方は、例会の翌日までに300字以内で会報用の原稿を事務局宛に送ってください。ご都合が悪く当番の日に出席できない方は必ず事前に事務局にメールしてください。

プログラム

会員卓話：「私の大事にしていること」

一人5分で卓話をしていただきました。

藤野将明さん



私がこの3年間大事にし続けている言葉が、“Getting hot without getting mad” 「熱くあれ！でもカッとなるな」です。自分の言動に熱がこもっていなければ、周囲を巻き込むことはできません。他方、熱が怒りや圧に変わってしまうと、人に話を聞いてもらうことすら困難になります。3年前、人間関係のトラブルやチームの機能不全を経て、私は「頭に血が上る」ということは、血流と関係があるのではないか？血流を活性化させることで、情動を整えることができるのではないか？という問いを立てました。この熱と圧の二項対立をアウフヘーベンし、人にもっと優しくなれる自分へと変わるため、サウナに通い続けています。

福本博之さん



も同様です。

多様性という言葉をよく見聞きします。ロータリーでも DEI 重視を打ち出しています。今回のスピーチテーマである「私の大事にしていること」、私の場合は自分の気持ちに素直でいることです。常識や慣習にとらわれず、自由に生きたいと思っていますし、他人の気持ちも理解し尊重するようにしているつもりです。しかしこれがなかなか難しい。多様性を受け入れるということは、自分が嫌悪感を抱くようなことでも認めるということです。自分の自由のためには他人の自由も認める。足の引っ張り合いが大好きな日本ですが、どうせ文句を言われるなら自分の信念に従って楽しく生きていきましょう。広島新世代ロータリークラブの活動で

平本裕一郎さん



私が大切にしている事は3つあります。まず「当たり前のことを当たり前に行う」ことです。例えば挨拶をする、約束を守る、感謝の気持ちをきちんと伝える。どれも特別なことではありませんが日々の忙しさの中で疎かになりがちです。2つ目は「相手の立場に立って考える」ことです。自分の都合だけで判断するのではなく、この言い方で相手はどう感じるだろうか、と少し立ち止まって考えるようにしています。最後に「謙虚な気持ちを忘れない」ことです。知識や経験が増えても、知らないこと、できないことの方が多いと常に感じてます。だからこそ人の意見に耳を傾けること、素直に学ぶ姿勢を持つことを大切にしています。

伊藤弘幸さん



ち続けることが「今の私が大事にしていること」です。

私は設計事務所に7年間、小さな町の総合建設会社に22年間、そして52歳で起業し、その時から「仕事探し、人探し、夢探し」を心の支えとして20年間やってきました。就職して約50年間働き続け、今年の6月に後を社員に託して社長交代をしました。若い人が挑戦する場所を提供するのが私の今の役割なのだと思います。くしくも今の広島新世代ロータリークラブでの立ち位置と同様な思いです。約50年間、建築を通してしか世間を見る事は出来ていません。今からは「感動する私の色探し」の旅に憧れます。その色は鮮やかな色なのか、奥深い色なのか、色を探す人生の旅、つまりあくなき好奇心を何らかの形で持ち

伊藤史保子さん



日常で心掛けている事を「私の大事にしていること」としてお伝えします。第一に「流れに身を任せる」 流れに任せ抵抗せず何事も受け入れるようにしています。地球の誕生、人類の誕生からの年月に比べれば人の一生は僅かばかり、流れに沿って生きていくしかないのではと今では思っています。第二に「否定的な言葉は使わない」 前向きに、良い方向へ向かう言葉を使うようにしています。自分の発する言葉は相手に対してでも自分に言っていることと同じだそうです。第三は「話をよく聞く」 人は話をすれば安心します。そしてその話に応えれば次のステップへ進むことができます。家庭で、職場で、誰もがしっかりと話せる環境

を作り、その話を聞いて、応えられる人物でありたいと思います。以上が今の私が大事にしていることです。

木坂智美さん



私が生きる上で最も大切にしている価値観は、誠実さ、冷静な判断力、自己成長への強い志です。目の前の全てに対し誠実であることを基本とし、ネガティブな感情に流されず常に正しく物事を判断する冷静さを持ちます。また、妥協や言い訳をせず、常に高い目標を掲げて自己の成長を目指します。この価値観は、「人の心と体を癒し、輝ける人生のサポートをする」という自身の鍼灸院の理念と深くリンクしています。関わる全ての人々の幸せを願い、その実現のために日々精進してまいります。